

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：24402

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653143

研究課題名(和文)多文化コミュニティワークのモデル構築に関する研究

研究課題名(英文)A Study on Model Building for Multicultural Community Work

研究代表者

全 泓奎 (JEON, HONG GYU)

大阪市立大学・都市研究プラザ・教授

研究者番号：00434613

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：近年、経済のグローバル化の進展に伴い注目されるようになった、多文化コミュニティに対する生活課題の解決への対応が求められている。本研究では、「多文化コミュニティワーク」という実践の重要性と、それにかかわる現状と課題を示すところに主眼をおきながら実施したもので、主な研究の成果は、以下の通りである。(1)東日本大震災当時の外国籍住民の現状と生活課題を明らかにしたもの。(2)大阪府下の多文化コミュニティでの生活実態を踏まえた地域資源の調査を実施し、多文化コミュニティワークとしての地域再生の実践を提案したもの。(3)台湾の例として、都市原住民コミュニティの生活実態を調べ、多文化共生の課題を探ったもの。

研究成果の概要(英文)：Along with the fastening pace of globalization, increasingly attention is being paid to finding solutions for the livelihood issues faced by multicultural communities. This research focuses on the importance of "multicultural community work" practices and discusses related examples of the current situation and issues. The results are as follows: (1) We clarify the livelihood issues and the current conditions of foreigners during the aftermath of the Tohoku Earthquake and Tsunami. (2) We conducted a survey on local resources by focusing on multicultural communities in Osaka Prefecture, and suggested new practices for community regeneration. (3) We investigated multicultural coexistence issues, by investigating urban original community settlements in Taiwan.

研究分野：アジア都市論、居住福祉論

キーワード：外国籍住民 多文化共生 多文化コミュニティワーク 東日本大震災 エスニックミュージアム 都市
原住民

1. 研究開始当初の背景

経済のグローバル化が進行する中、財貨の移動のみならず、人の移動も年々増えており、多文化コミュニティの広がりが認識されている。なお、外国籍住民の生活課題の解決に向けた対応も求められている中、相互の文化理解を踏まえた多文化コミュニティワークの実践を提案することが本研究開始当初の趣旨である。

2. 研究の目的

本研究は、上記の趣旨に沿って、近年、定住を念頭においた長期滞在者が増加している点を踏まえ、以下の三つの調査を中心に多文化コミュニティワークのモデルを模索することを目的としている。

- (1)大阪府下におけるエスニックコミュニティにおける生活課題及び生活支援ネットワーク、関連したエスニックな地域資源の同定。
- (2)東日本大震災における被災外国人の被災及び支援状況の調査。
- (3)比較研究の視点から、近隣国である韓国及び台湾におけるエスニックコミュニティにかんする調査研究。

3. 研究の方法

基本的な研究方法としては、先行研究や統計等の行政資料の分析に基づく文献調査、及び被調査者のプライバシーや人権に配慮したライフヒストリー調査を行った。できるだけ現場に密着し、かつ研究の成果が現場に還元できるような方法で、アクションリサーチを実施した。

4. 研究成果

本研究による成果としては、以下のものが挙げられる。

(1)大阪市内の代表的なエスニックコミュニティである西成区北西部でエスニック地域資源の調査を行い、地元の住民団体及び商店街との連携・協力の下、「西成エスニックMAP」を作製配布すると共に、地元と連携した、「エスニックミュージアム文化講座」を連続して実施した。それらがエスニックコミュニティとしての多文化コミュニティの理解を高める機会となったことは特筆すべき点である。なお、本研究の結果、新たなコミュニティのつながりが生まれた。例えば、八尾市における多文化コミュニティについて、本研究による成果の共有と継続的な連携事業の実施が見込まれる。

(2)東日本大震災で被災した外国人の現状を捕らえることができ、都市型とは異なる様相を持つ東北型多文化共生の含意、そして、そ

の実践ツールとしての日本語教室の重要性を社会に知らしめることができた。その後、西成における日本語教室にも参加しながら外国籍住民、とりわけ結婚移住者である外国籍女性が抱いている生活課題も、今後の新たな研究課題として見出すことができた。

(3)近隣国である韓国と台湾における多文化コミュニティについても、比較的な観点から研究代表者及び研究分担者、協力者と研究を進め、とりわけ、在韓華僑に関しては、旧来移民の日韓比較研究における有意義な洞察を得ることができた。なお、台湾での関連事例としては、エスニックコミュニティとして古い歴史を持つ、同国の原住民集落における生活課題を同定し、地域共生の課題を模索しているところである。

しかし、ここで言及した研究の成果は、今回の成果報告で完結しているものではなく、ほとんどは、今後も継続的な研究の実施が必要なものであり、本研究によりその出発点に立つことができたことは、もう一つの本研究の成果としてあげるべき点と考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

全泓奎・川本綾・中西雄二、「エスニックミュージアムづくりを通じた多文化共生型コミュニティの創生と地域再生に関する研究」、『ユニバーサル財団研究助成報告集』(査読無)、pp.1-21、2014

全泓奎・川本綾・中西雄二・岩山春夫、2013、「地域再生を促す社会体験型エスニックミュージアム構想の実現に向けたアクションリサーチ」、『第3回東アジア包摂型都市ネットワークの構築に向けた国際ワークショップ：脆弱都市から包摂都市へ』(査読無)、大阪市立大学都市研究プラザ、pp.30-31

全泓奎、2013、「多文化コミュニティワークによるコミュニティの再興」、『東アジア居住学会論文集、『安居樂業』(査読無)、vol.8、pp.85-88

川本綾、2013、「韓国の多文化政策と在韓華僑：仁川チャイナタウン構想を事例に」、『移民政策研究』、第5号、(査読有)、pp.65-81

全泓奎、2012、「東日本大震災と定住外国人支援の課題」、『コリアンコミュニティ研究』、vol.3、(査読無)、東信堂、p.7

全泓奎、2012、「西成エスニックミュージアムを展望する」、『コリアンコミュニティ研究』、vol.3、(査読無)、東信堂、p.27

〔学会発表〕(計 3 件)

HSIAO Hong-wei & JEON Hong-Gyu, 'Inhabitants Struggle against Resettlement of Urban Ethnic Community - The case of Sanying and Xizhou Aboriginal Tribe, Taiwan', The 7th East Asian Regional conference in Alternative Geography (EARCAG) "The Right to Inhabit: the Asian Challenges", Osaka City University, Japan, July 23-25 2014.

HONG-GYU JEON, June 4 2012, Community Rebuilding Through Multicultural Work : Searching for the Inclusive Immigrant City from the Tohoku-model of Multicultural Practices, The 1st Meeting of Association for Urban Creativity, Observatoire Sociologique du Changement, Institut d'Etudes Politiques de Paris: SciencesPo), 98 rue de l'Universite, Paris, France

岡アユ美・藤原望・全泓奎、「東北型多文化共生」にみる定住外国人支援のあり方と今後の課題」、日本居住福祉学会大会、2012年5月20日、中京大学

〔図書〕(計 4 件)

全泓奎・川本綾・中西雄二・鄭栄鎮、『エスニックミュージアムによるコミュニティ再生への挑戦』、大阪公立大学共同出版会、2015年 全66頁

全泓奎・川本綾、2013「コリアンコミュニティの形成と定住プロセス」、吉原和男他共編、『人の移動辞典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』、丸善出版、pp.294-295

全泓奎、2013、「災害弱者」、大阪市立大学都市防災研究グループ編、『家族でよむ防災読本：いのちを守る都市づくり【アクション編】』、大阪公立大学共同出版会、pp.62-63

全泓奎、2013、「災害弱者支援：全ての人を災害から守るコミュニティ防災を探る」、大阪市立大学都市防災研究グループ編、『家族でよむ防災読本：いのちを守る都市づくり【アクション編】』、大阪公立大学共同出版会、126

全泓奎・岡アユ美・藤原望、2012、「東北型多文化共生と定住外国人支援の課題」、大阪市立大学都市防災研究グループ編、『いのちを守る都市づくり』、大阪公立大学共同出版会、pp.137-147

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
全 泓 奎 (JEON HONG GYU)

大阪市立大学・都市研究プラザ・教授
研究者番号：00434613

(2)研究分担者

川本 綾 (KAWAMOTO AYA)
大阪市立大学・都市研究プラザ・都市研究
プラザ特別研究員
研究者番号：90711945